

<白金標準、4500 円を再度試す下値抵抗帯の再確認・・・>



(出所：オアシス)

特にプラチナ価格は年末から年始に掛けてアノマリーでは上昇基調を続ける確率が高いが、南アフリカの電力不足が解消し、賃金交渉も5年契約の2027年まで交渉がない事など、アノマリー要因が解消している。また中国の中央経済工作会議で市場が期待するほどの刺激策の具体的な数字が見られない方事など受けている。特に今週開催される18日のFOMCでは利下げ確率が高くも、逆に日銀金融政策決定会合では利上げ見送り観測が高まりを見せ、為替市場の円安・ドル高の動きにドル建て価格が抑えられ、白金標準先物は4537円まで下値を模索している。しかしドイツの貴金属会社ヘレウス・プレシャス・メタルズが発表した「Precious Metals Forecast 2025」によると、プラチナ価格は自動車と工業の両分野で需要が伸びているにもかかわらず、2025年も1オンス当たり850ドル～1220ドルの範囲にとどまると予測、パラジウム価格は25年に1オンス＝800ドル～1200ドルの範囲内になると予想するなど、現在の価格水準が予測の下値に近く、下値を固めると年始に向けた動きが活発化すると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDの上昇が止まり、シグナルは切り上げている。RCIでは短期が切り下げ、長期は下値維持の動きを見せており、オシレーターの動きでは目先4500円を試す値動きに注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,344,000 円(2024 年 12 月 16 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 12 月 16 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>